

令和5年度 「ハッピー♥スマイル」 第2回開催報告

【日 時】 令和5年7月22日（土）14時～

【場 所】 浅口市健康福祉センター
ボランティア研修室

【参加者】 保護者9名 子ども7名 医師1名
養護教諭1名 救急救命士1名



1 開 会

2 アレルギー情報提供

- 昨年度行われた大規模調査で食物アレルギーの子どもは2013年（9年前）の
前回より約12万人増えた。またアナフィラキシーを起こした子どもも増えている。
教育現場では食物アレルギー対策が進むが、まだ道半ばである。



3 情報交換

- 今回は岡山市より食物アレルギー相談に来られた方のお話を伺いました。現在7歳の子もさんで、10カ月の時に卵で湿疹と嘔吐出現。近くの病院で治療、食物負荷しながら少量づつ食べていたようです。その後外食で、アナフィラキシーを起こしたため、外食は禁止となりました。3才の時に県内の有名な病院に転院し通院していたが、食物負荷も思うように進まなかった。通院を続けていたが、その病院ではすぐに対応できる治療はないので、転医を勧められ自宅近くのアレルギー専門の小児科で普段かかかっているとのことでした。1年生になっても卵は食べられず、いつ食べられるようになるのかという不安もあり相談に見えました。現在は塗り薬と目薬を使用しているがあまりきちんとできてはいないようです。塗り薬はべとべととして気持ち悪がり、寝ているときにしか塗れていないとのこと。

参加したメンバーの体験談をお話して、参考にして頂きました。同じような経験をした仲間がいるということは心強いと思います。地元で信頼できる医師と巡り会って治療継続している方もおられますが、近場では見つからず、野を越え山越え大阪で信頼できる医師と巡り会って希望の光が見えたメンバーもいます。

スキンケアが一番大切な治療であり、肌がツルツルするようにして、痒がらないよう保つ必要があります。子供さんが楽しんでできる工夫が大切です。また最初から全身をと考えずに、特に悪そうなところだけを塗って少しづつ範囲を広げていくといいかもしれません。目・鼻・呼吸器も外界と接しており、そこから感作されるので、症状があれば点眼・点鼻・吸入なども並行してする必要があります。先生との信頼関係も大切。相性もあり名医が必ずしもいいとは限らない。ハッピースマイルのメンバーは県内の医療機関で当分治療は見合わせます、と言われて途方に暮れた方が多いです。少し遠いが、大阪に専門医のいい先生がおられるので、家族の了解が得られれば受診したらどうですか？野を越え山越え大変ですが、希望の光がともると思います。



次回は、**令和5年9月17日(日)金光公民館**で開催します。アレルギー専門医をお招きして食物アレルギーの講演と緊急時対応の研修です。新型コロナウイルス感染症の状況により、中止するかもしれません。事前にホームページでの確認をお願いします。

(浅口医師会 高山晴彦)